

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームひかりA	評価実施年月日	平成20年3月3日
評価実施構成員氏名	三宅 竹村 黒田 越智 中西 谷原 五十嵐 岡 桜橋		
記録者氏名	三宅令子	記録年月日	平成20年3月15日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	開設時にグループホーム独自の理念、方針を作り上げた。すでに利用者本位の理念、方針を大切に、地域密着重視の理念を掲げ実施している。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	運営理念を事務所に貼付している。毎朝一度、ミーティング時に職員、事業者が運営理念を唱和し理念を確認し、基本理念が利用者、ご家族、職員に反映されるよう常に運営理念の実現に取り組んでいる。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	グループホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう交番、商店等パンフレットを町の要所に置きた、バス広告、取材対応等広報に取り組んでいる。市民審議会、町内会の加入、町内行事への参加、協力(フラワーロード作り、春光台祭りへの協力)、なかよし家族交流祭り 家族や地域の方が来訪された際に目につきやすい玄関に掲示している。ホームページの開設を予定しており、理念や方針の他、日々の様子等も伝えたい。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	自宅に代わる住み家として安堵感を持って生活してもらえるよう、サルビアとマリーゴールドが秋ごろまで美しく咲き、また季節ごとに、玄関前には七夕飾り・クリスマスツリーのイルミネーションを飾り、入居者、地域の方々に喜ばれている。昨年の夏は玄関前の駐車場で、子供盆踊り、ビアガーデン、屋台など入居者、地域の方々と夏祭りを楽しみ交流をはかった。玄関の塀の前がバス停となっており、ベンチを置きバス利用者や、入居者がベンチに腰かけ気軽に交流できるよう配慮している。ごみ出しや近所を散歩したり庭作業をしている際に挨拶を交わっている。また、近所の方より声を掛けてもらう機会が増えていと感じる	さらに交流の機会が増えると良いと思われ、気軽に会話ができるように心掛けたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	グループホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう交番、商店街等パンフレットを町の要所に置きた、バス広告、取材対応等広報に取り組んでいる。市民審議会、町内会の加入、町内行事への参加、協力(フラワーロード作り、春光台祭りへの協力)、なかよし家族交流祭り	地域活動の祭りや清掃活動、行事等参加していきたい。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の役員との交流を通じ行事参加奉仕活動、寄付等を通じ情報を共有しつつ貢献に勤めている「頭のゲーム」「カラオケ教室」又は話し相手ボランティアスタッフとして地域住民の方々にも参加していただき取り組んでいる。	「頭のゲーム」「カラオケ教室」他にも地域住民の方々にも参加していただけるものがないか検討したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価、外部評価の意義について職員に伝え、評価は全職員で取り組んでいる。また、評価された事を素直に受け止め、評価結果を元に見直し、改善の必要な点は、ミーティングで話し合いをして即実行している。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議では、利用者の状況、ケアサービスの実際、毎月の行事報告、自己評価・外部評価結果等をお知らせしている。より良い施設を目指し、会議のメンバーからも会議についての意見を聞き、今年度の活動に生かしている。今年度は、利用者と一緒に試食会を行い、利用者・認知症について理解を深めていただいた。又新しい取り組みについても意見を取り入れ相互理解をはかっている。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市役所の介護高齢課に行き来する機会をつくり、疑問、質問があれば確認している</p>	<p>必要に応じ積極的に連携を図っていきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度を利用している方がいるが、具体的に地域権利擁護事業や成年後見制度について研修等に参加した事はない。パンフレットを事業所に置いていて、必要な人にはそれらを活用できるよう支援したい</p>	<p>地域権利擁護事業や成年後見制度について、学ぶ機会を設けていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を設置し、定期的に会議を行っている。その中で、ヒヤリハット、事故報告書をもとに虐待につながっている対応がないか話し合い、防止に努めている。市町村からの資料をユニットに配布している。身体拘束ゼロを実施している。日常生活を記録し事前対応につとめている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書は目を通してもらい、その上で十分な説明を行い相互納得の上契約を交わしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ひかりBOXを玄関脇に設置し意見を吸収している。公的窓口の紹介、外部者による家族アンケート等の意見を用意した。速やかに対策案を検討して回答している。家族会においての話し合いを大切に利用者側の意見を反映していきたい。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	たよりの発行や、定期的に電話をし近況報告をしている。本人、家族と相談の上、手持ち金としてお預かりしたお金でおむつ、衣類、実用品、嗜好品等のホームで購入の場合は、家族に定期的にその出納表を送っている。またお小遣いとして自分の部屋にお金おくときは本人が持つことの意義となくすことの危険を家族と事前に相談し各自に応じたお金の額や取り扱いについて合意し取り決めてしている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ひかりBOXを玄関脇に設置し意見を吸収している。公的窓口の紹介、外部者による家族アンケート等の意見を用意した。速やかに対策案を検討して回答している。家族来訪時に意見交換をするようにしている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	直接運営者や管理者へ報告相談している。特別必要な場合は全員を招集し理解と反映をはかっている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態で、勤務時間の変更を行っている。例えば病院受診時間に合わせ勤務時間をずらし、日中の活動時に人員を多くする等、変更の希望があればシフトの調整をしている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	新しい職員が入職する際に、年齢や経験等他のユニットとのバランス、ユニット職員間の関係等を考慮し配置移動を行う場合があるが、移動する際には必要最小限の移動に留めている。出来る限り引継ぎ期間を設けて、利用者へのダメージを防ぐ配慮をし、元々いる職員が利用者に対してフォローしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修参加の機会を設けている。福祉の知見者による勉強会や、申し送り時に有資格者・研修に参加したものからの指導や助言をしている。また要請を受けた場合は研修会へ講演や発表にも職員を派遣協力している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>運営者は、管理者や職員がグループホーム研究会と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや実践者発表等の勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>話しやすい環境にあり、上司や職員間同士仲良く仕事ができている。人間関係の把握を必要に応じて個人面談を行っている。また、親睦を兼ねての会を開催している。ミーティングで思いを話し合うようにもしている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>資格取得に必要な講習には参加できるようシフトを調整している。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談をいただいた時点では、家族やケアマネとの状況の把握となるが、事前の入居前面談では本人と面談し、直接会って状態の確認、お話を聞いている。日常の会談を重視し、自然なやりとりの中から気持ちをくみ取り受け止め、対応するようにしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談の電話、訪問をいただいた時に、ゆっくりと時間を取りお話を聞いている。見学にも来ていただいてグループホームへの理解をしてもらえるよう考慮している。また、対応出来る事、出来ない事を伝えている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	待機者もあり、相談からすぐに入居へつながらないため、別のグループホームや他のサービス利用を勧める事もある。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に本人に見学してもらったり、職員や他の利用者との交流をもってもらい、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	毎日一緒に生活をしていると人生の生き方など学ぶ点が多々ある。信頼関係を築き、本人を介護される立場のみに置かず一緒に過ごす時間を大切に、支えあう関係を築けるよう努力している。本人が誇りを持てるように手伝いや相談などを持ちかけ達成感を共有している。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	一緒に本人を支えていけるように協力をお願いしている。家族の面会、また不穩時に電話対応や外出等して協力してもらう事もある。行事と一緒に参加していただき、いつもの様子を知っていただけるようにしている。情報の交換によりより良い関わりが出来る様になっている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	一人ひとりに合った、またその家族に合った支援を心掛けている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所に出向いて行かれる事もある。他の施設にいる家族への面会も定期的に行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	仲の良い利用者同士は自然と関わりを持っているので見守りを行っている。食事時に隣の席に座ってもらっている。また、コミュニケーションが上手く取れない方は、職員と一緒に関わりを持ち、孤立してしまわないよう配慮している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。利用契約終了後の継続的な関わりは前例がないが、職員は入院中の方の見舞いに行く等して、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。亡くなった場合も葬儀に参列する事が多々ある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を傾聴し、その都度対応している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に情報を本人や家族に聞き整理して職員が把握出来る様まとめている。入居後に得た情報も記録に残し職員が把握出来るようにしている。日常の会話の中で昔の経験や生活を聞き取り理解に努力している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者の体調や心境の変化を見逃さないよう観察に努め、申し送り等で全職員に伝わるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日常の会話の中から、独自の生活歴を有するその人の個性や希望を全体的に把握して、可能性を追求し本人がよりよく生活していくための課題を見直すアセスメントを行っている。入居者一人ひとりに対する職員全員の関わり方の方針と具体的な内容を導く個別の計画を作成している。介護計画は、すべての職員の気づきや意見を採り入れ、毎日の中で実践可能なケアプランを作成し、ケアプランの内容を職員みんなに徹底している。介護計画は、入居者や家族とも相談しながら意見・希望・アイデアを活かして作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	見直しを行うことはもとより、本人、家族、必要な関係者と話し合い、状態変化に応じた随時の見直しを行うモニタリングをしている。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録の大切さを意識しながら職員全員が生活をともにし、キャッチした情報を申し送りノート、経過記録、予定表等をこまめに正確に記録し伝達している。毎朝一時間のミーティングで、入居者全員の伝達すべき内容を検討し、決定した内容を記録して全員に確実に申し送れたか、確認チェックし徹底し、ケアを行ううえでの課題の見直しに活かしている。生活記録により症状変化や気持ちの変化を検討。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	多機能性はない		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化、教育機関等と協力しながら支援している。	地域の婦人部の方々、民生委員の方の訪問がある。消防に依頼し救命講習を受講して関係作りは出来てきている。中学校の体験学習等に開放し、入居者と若い世代交流をしている。知的障害者の就業体験支援をし、介護協働をしている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の要望などを受け入れ、お話し相手や、楽しめるボランティア活動を受け入れる他との相互支援体制もある。		事業所の集まり等で情報を得て必要な支援があるか検討していきたい
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて助言をいただいている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	これまでの一人ひとりの受診方法をふまえて入居者、または家族の希望を把握し、納得できる医療機関を受診している。各診療科目ごとの医療連携体制をとっており24時間緊急の場合連絡をとる体制になっている。歯科医師の往診も可能になっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の人の医療に熱心で、家族や職員の話をよく聞き適切な指示や助言をしてくれる医師の確保している。入居者の特性をよく理解し、家族や職員と相談しながら受診に至る過程が入居者にとってできるだけストレスと負担にならないように配慮してくれる医療機関を確保している。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員を確保している。看護職員と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院の目的を早く達成し入院による心身のダメージを最小にするため、入院した時点から早期退院に向けた計画を病院職員や家族と話し合い、そのための支援を行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に看取りの指針についてせつめいしている。入居者の今後希望があれば受け入れていく予定		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	希望があれば受け入れていく。最後まで普通の暮らしができるよう支援していきたい		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居時はできるだけ自宅にいるように居室をレイアウトして頂き、入居に至っている。古く使い慣れた持込の備品等も重視、ダメージ防止に努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者ひとりひとりの尊厳を大切に、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている現実など否定しない、等を職員は徹底している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ひとりひとりができることを、長所、得意なことなどを見つけてその人にあった活躍の場を暮らしに取り入れている。(掃除・除雪・食器洗い)</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>それぞれの気持ち、体調に合わせた支援をしている。きっかけつくりを職員が行い、入居者に決めてもらっている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>入居者一人ひとりが希望、個性、生活層などに応じて髪型・服装の選択やおしゃれができるように支援している。入居者の個々の好みに合わせ美容師、理容師の方と十分に連携をとり支援している。女性は訪問美容、男性は訪問理容の利用している。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>入居者の好みを把握して献立に取り入れている。誕生日や個別のお祝い事は本人の希望をとりいれ本人に喜ばれている。入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や慢性疾患(糖尿病)、日々の体調を把握して、ひとりひとりに適した調理方法にしている。便秘下痢等の健康状態にあわせた調理方法や、おいしいような盛りつけの工夫をしている。また調理のお手伝いなどに参画してもらっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつ、飲み物(アルコールは禁)はひとりひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者の背景にあるさまざまな誘因をていねいにチェックし、改善できる点はないか、それまでの排泄習慣を探りながら、一人ひとりにあった排泄支援をしている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者の長年の生活習慣や現在の希望を大切に無理強いするのではなくつろいだ気持ちで入浴できるよう支援している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	睡眠薬に頼っていると、いろいろな弊害が出てくる。昼夜逆転にならぬよう日中の活動などに気を配り安定した眠りが導けるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	楽しみや張り合いのある暮らしのために、また潜在化している記憶や体力の最大限を活かして「自分らしく生きていく」ために、一人ひとりにあった楽しみや役割の場面づくりの支援を行っている。(テレビ番組、除雪、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話等)		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	認知症のためにお金の管理や日常の出納が難しくなっているが、支援があれば扱える分だけ自分のお金を手元に持ち、使わずとも自分で持っているということで安心する人、ちょっとした買物を楽しめる人も決して少なくない。本人のそれまでのお金の使い方、持ち方、本人と家族の希望、金銭管理や使うために有する力を把握し、日常にお金に触れ、使えるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買物に行くことは、町や商店との触れ合い、本人の記憶に残るさまざまな品物や場所との出会い、季節を体感できる場面などを体験してもらうことにつながるので、必要物品や好みの買い物に出る機会を日常的につくっている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	レクリエーションなど季節ごとに外出する機会を作っている。(散歩・町内のお祭り・美術館等・神社参り・買物・さくらんぼ狩り・りんご狩り・近所の公園)		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	手紙や電話が困難になっている場合は、入居者一人ひとりの手紙や電話の習慣、希望持てる力を確認しプライバシーを守りながら各自に応じた手紙や電話の利用ができるように支援している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族が訪問の際は歓迎し、面会時間などの定めはなくいつでも出入りは自由である。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	すべての職員が、身体拘束のないケアを実践している		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	外出の察知をしたら、一緒について行くなどし自由な暮らしを支え、一緒について行けないときは、気を紛らわせるような対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>日中職員がリビングにいるようにし、居室、リビングを見守る。夜間は入居者の音が聞こえるように、入居者の廊下を見守っている。</p>		
<p>68 注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>注意の必要な物品については入居者の手の届くところには置かないように鍵をかけて保管、管理する。職員の見守りのなが行っている。収集する人もいるので所在確認と個数、量などは職員がチェックしている。</p>		
<p>69 事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>緊急事態が発生した場合組織的な対応や管理がスムーズになされるための緊急時対応マニュアルがあり、全職員が徹底するよう日々確認している。</p>		
<p>70 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>緊急事態が発生した場合組織的な対応や管理がスムーズになされるための緊急時対応マニュアルがあり、全職員が徹底するよう日々確認している。</p>		
<p>71 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>防災訓練、避難訓練を実施している。地域に協力を得られるように運営推進会議や近所との関係づくりをしている</p>		
<p>72 リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>発生時の対処方法、生活方法などアセスメントを含め家族と相談しながら行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	本人のふだんの様子をよく知り、常に変化や異常の発見に努めている。変化に対応した継続的な対応を確実に進めていくために経過記録に残している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者個々が使用している薬剤の治療目的、薬の用法や用量を把握し医師の指示通り本人が服薬できるよう薬箱・薬ファイルを作り、朝・昼・夜の服薬を全職員が支援している。服薬が心身の安定につながっているか、副作用がないか申し送り確認し副作用がある場合は医師と家族に連絡している。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	一日の暮らしの中で、飲料水を増やす、繊維質の多い食品や乳製品を献立やおやつに取り入れる、定時の排便誘導、運動や家事などで身体を動かす等便秘解消のため取り組んでいる。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎日のモーニングケア、ナイトケアと一緒に歯ブラシを持ち入居者の力を引き出し、自分で習慣付けられるよう支援している		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一日の摂取カロリーや水分摂取量を記録に残しカロリーの過不足、栄養の偏りがないように把握している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策研修会に出席し朝のミーティングで報告を繰り返し、注意事項を貼付し全職員に徹底している。マスク・うがい・手洗いの徹底。全職員・入居者はインフルエンザを受けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	夜間及び必要時の除菌や食洗器を活用している。冷蔵庫の中は保存期間のチェック管理をおこなっている。安全に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	自宅に代わる住み家として安堵感を持って生活してもらえよう、サルビアとマリーゴールドが秋ごろまで美しく咲き、また季節ごとに、玄関前には七夕飾り・クリスマスツリーのイルミネーションを飾り、入居者、地域の方々に喜ばれている。毎年、夏は玄関前の駐車場で、子供盆踊り、ピアガーデン、屋台など入居者、地域の方々と夏祭りを楽しみ交流をはかった。玄関の堀の前がバス停となっており、ベンチを置きバス利用者や、入居者がベンチに腰かけ気軽に交流できるよう配慮している。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)に鉢物をたくさん飾りほっとできる場としている。また四季、催事にあわせて室内の飾り付けをしている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	食堂のリビング、テレビの前、廊下の突き当たり、玄関の横、夏は庭やデッキで椅子に腰掛け、自由に過ごせるスペースがある。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	7.5畳の広さがあり、使い慣れた家具、仏壇等馴染みの物が持ち込まれている。また写真などを壁に飾り、安心して過ごせる場所となっている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	毎日10時と3時に部屋の換気をして、できるだけ自然環境に近い換気、空調管理の日々の点検をする。暖房の調節はこまめに行い体調の安定を考えた消臭、除菌液を噴霧している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		



サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① 大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	① ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
 運営理念「健康への配慮を行い心と体の元気を取り戻していただく」「思いやりや命の尊さ、人としての尊厳を重んじる」「こころの通いあうなかよし家族」の実践。  
 毎朝のミーティングで入居者さんの状況報告・振り返り、および予定・決定事項の連絡。  
 ペットと一緒に入居できる。  
 地域の一員として、地域の行事には可能な限り入居者さんと参加し、地域に根付いた活動の実践。

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームひかりB	評価実施年月日	平成20年3月3日
評価実施構成員氏名	三宅 宍戸 佐藤 会田 前田 木脇 青山 池沢 宮西		
記録者氏名	三宅令子	記録年月日	平成20年3月15日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	開設時にグループホーム独自の理念、方針を作り上げた。すでに利用者本位の理念、方針を大切に、地域密着重視の理念を掲げ実施している。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	運営理念を事務所に貼付している。毎朝一度、ミーティング時に職員、事業者が運営理念を唱和し理念を確認し、基本理念が利用者、ご家族、職員に反映されるよう常に運営理念の実現に取り組んでいる。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	グループホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう交番、商店等パンフレットを町の要所に置きた、バス広告、取材対応等広報に取り組んでいる。市民審議会、町内会の加入、町内行事への参加、協力(フラワーロード作り、春光台祭りへの協力)、なかよし家族交流祭り 家族や地域の方が来訪された際に目につきやすい玄関に掲示している。ホームページの開設を予定しており、理念や方針の他、日々の様子等も伝えたい。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	自宅に代わる住み家として安堵感を持って生活してもらえよう、サルビアとマリーゴールドが秋ごろまで美しく咲き、また季節ごとに、玄関前には七夕飾り・クリスマスツリーのイルミネーションを飾り、入居者、地域の方々に喜ばれている。昨年の夏は玄関前の駐車場で、子供盆踊り、ビアガーデン、屋台など入居者、地域の方々と夏祭りを楽しみ交流をはかった。玄関の塀の前がバス停となっており、ベンチを置きバス利用者や、入居者がベンチに腰かけ気軽に交流できるよう配慮している。ごみ出しや近所を散歩したり庭作業をしている際に挨拶を交わっている。また、近所の方より声を掛けてもらう機会が増えていと感じる	さらに交流の機会が増えると良いと思われ、気軽に会話ができるように心掛けたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	グループホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう交番、商店街等パンフレットを町の要所に置きた、バス広告、取材対応等広報に取り組んでいる。市民審議会、町内会の加入、町内行事への参加、協力(フラワーロード作り、春光台祭りへの協力)、なかよし家族交流祭り	地域活動の祭りや清掃活動、行事等参加していきたい。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の役員との交流を通じ行事参加奉仕活動、寄付等を通じ情報を共有しつつ貢献に勤めている「頭のゲーム」「カラオケ教室」又は話し相手ボランティアスタッフとして地域住民の方々にも参加していただき取り組んでいる。	「頭のゲーム」「カラオケ教室」の他にも地域住民の方々にも参加していただけるものがないか検討したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価、外部評価の意義について職員に伝え、評価は全職員で取り組んでいる。また、評価された事を素直に受け止め、評価結果を元に見直し、改善の必要な点は、ミーティングで話し合いをして即実行している。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議では、利用者の状況、ケアサービスの実際、毎月の行事報告、自己評価・外部評価結果等をお知らせしている。より良い施設を目指し、会議のメンバーからも会議についての意見を聞き、今年度の活動に生かしている。今年度は、利用者と一緒に試食会を行い、利用者・認知症について理解を深めていただいた。又新しい取り組みについても意見を取り入れ相互理解をはかっている。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市役所の介護高齢課に行き来する機会をつくり、疑問、質問があれば確認している</p>	<p>必要に応じ積極的に連携を図っていきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度を利用している方がいるが、具体的に地域権利擁護事業や成年後見制度について研修等に参加した事はない。パンフレットを事業所に置いていて、必要な人にはそれらを活用できるよう支援したい</p>	<p>地域権利擁護事業や成年後見制度について、学ぶ機会を設けていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を設置し、定期的に会議を行っている。その中で、ヒヤリハット、事故報告書をもとに虐待につながっている対応がないか話し合い、防止に努めている。市町村からの資料をユニットに配布している。身体拘束ゼロを実施している。日常生活を記録し事前対応につとめている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書は目を通してもらい、その上で十分な説明を行い相互納得の上契約を交わしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ひかりBOXを玄関脇に設置し意見を吸収している。公的窓口の紹介、外部者による家族アンケート等の意見を用意した。速やかに対策案を検討して回答している。家族会においての話し合いを大切に利用者側の意見を反映していきたい。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	たよりの発行や、定期的に電話をし近況報告をしている。本人、家族と相談の上、手持ち金としてお預かりしたお金でおむつ、衣類、実用品、嗜好品等のホームで購入の場合は、家族に定期的にその出納表を送っている。またお小遣いとして自分の部屋にお金おくときは本人が持つことの意義となくすことの危険を家族と事前に相談し各自に応じたお金の額や取り扱いについて合意し取り決めてしている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ひかりBOXを玄関脇に設置し意見を吸収している。公的窓口の紹介、外部者による家族アンケート等の意見を用意した。速やかに対策案を検討して回答している。家族来訪時に意見交換をするようにしている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	直接運営者や管理者へ報告相談している。特別必要な場合は全員を招集し理解と反映をはかっている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態で、勤務時間の変更を行っている。例えば病院受診時間に合わせ勤務時間をずらし、日中の活動時に人員を多くする等、変更の希望があればソフトの調整をしている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	新しい職員が入職する際に、年齢や経験等他のユニットとのバランス、ユニット職員間の関係等を考慮し配置移動を行う場合があるが、移動する際には必要最小限の移動に留めている。出来る限り引継ぎ期間を設けて、利用者へのダメージを防ぐ配慮をし、元々いる職員が利用者に対してフォローしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修参加の機会を設けている。福祉の知見者による勉強会や、申し送り時に有資格者・研修に参加したものからの指導や助言をしている。また要請を受けた場合は研修会へ講演や発表にも職員を派遣協力している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>運営者は、管理者や職員がグループホーム研究会と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや実践者発表等の勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>話しやすい環境にあり、上司や職員間同士仲良く仕事ができている。人間関係の把握を必要に応じて個人面談を行っている。また、親睦を兼ねての会を開催している。ミーティングで思いを話し合うようにもしている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>資格取得に必要な講習には参加できるようシフトを調整している。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談をいただいた時点では、家族やケアマネとの状況の把握となるが、事前の入居前面談では本人と面談し、直接会って状態の確認、お話を聞いている。日常の会談を重視し、自然なやりとりの中から気持ちをくみ取り受け止め、対応するようにしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談の電話、訪問をいただいた時に、ゆっくりと時間を取りお話を聞いている。見学にも来ていただいてグループホームへの理解をしてもらえるよう考慮している。また、対応出来る事、出来ない事を伝えている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	待機者もあり、相談からすぐに入居へつながらないため、別のグループホームや他のサービス利用を勧める事もある。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に本人に見学してもらったり、職員や他の利用者との交流をもってもらい、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	毎日一緒に生活をしていると人生の生き方など学ぶ点が多々ある。信頼関係を築き、本人を介護される立場のみに置かず一緒に過ごす時間を大切に、支えあう関係を築けるよう努力している。本人が誇りを持てるように手伝いや相談などを持ちかけ達成感を共有している。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	一緒に本人を支えていけるように協力をお願いしている。家族の面会、また不穩時に電話対応や外出等して協力してもらう事もある。行事と一緒に参加していただき、いつもの様子を知っていただけるようにしている。情報の交換によりより良い関わりが出来る様になっている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	一人ひとりに合った、またその家族に合った支援を心掛けている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所に出向いて行かれる事もある。他の施設にいる家族への面会も定期的に行っている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	仲の良い利用者同士は自然と関わりを持っているので見守りを行っている。食事時に隣の席に座ってもらっている。また、コミュニケーションが上手く取れない方は、職員と一緒に関わりを持ち、孤立してしまわないよう配慮している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。利用契約終了後の継続的な関わりは前例がないが、職員は入院中の方の見舞いに行く等して、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。亡くなった場合も葬儀に参列する事が多々ある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を傾聴し、その都度対応している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に情報を本人や家族に聞き整理して職員が把握出来る様まとめている。入居後に得た情報も記録に残し職員が把握出来るようにしている。日常の会話の中で昔の経験や生活を聞き取り理解に努力している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者の体調や心境の変化を見逃さないよう観察に努め、申し送り等で全職員に伝わるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日常の会話の中から、独自の生活歴を有するその人の個性や希望を全体的に把握して、可能性を追求し本人がよりよく生活していくための課題を見直すアセスメントを行っている。入居者一人ひとりに対する職員全員の関わり方の方針と具体的な内容を導く個別の計画を作成している。介護計画は、すべての職員の気づきや意見を採り入れ、毎日の中で実践可能なケアプランを作成し、ケアプランの内容を職員みんなに徹底している。介護計画は、入居者や家族とも相談しながら意見・希望・アイデアを活かして作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	見直しを行うことはもとより、本人、家族、必要な関係者と話し合い、状態変化に応じた随時の見直しを行うモニタリングをしている。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録の大切さを意識しながら職員全員が生活をともにし、キャッチした情報を申し送りノート、経過記録、予定表等をこまめに正確に記録し伝達している。毎朝一時間のミーティングで、入居者全員の伝達すべき内容を検討し、決定した内容を記録して全員に確実に申し送れたか、確認チェックし徹底し、ケアを行ううえでの課題の見直しに活かしている。生活記録により症状変化や気持ちの変化を検討。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	多機能性はない		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化、教育機関等と協力しながら支援している。	地域の婦人部の方々、民生委員の方の訪問がある。消防に依頼し救命講習を受講して関係作りは出来てきている。中学校の体験学習等に開放し、入居者と若い世代交流をしている。知的障害者の就業体験支援をし、介護協働をしている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の要望などを受け入れ、お話し相手や、楽しめるボランティア活動を受け入れる他との相互支援体制もある。		事業所の集まり等で情報を得て必要な支援があるか検討していきたい。
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて助言をいただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	これまでの一人ひとりの受診方法をふまつつ入居者、または家族の希望を把握し、納得できる医療機関を受診している。各診療科目ごとの医療連携体制をとっており24時間緊急の場合連絡をとる体制になっている。歯科医師の往診も可能になっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の人の医療に熱心で、家族や職員の話をよく聞き適切な指示や助言してくれる医師の確保している。入居者の特性をよく理解し、家族や職員と相談しながら受診に至る過程が入居者にとってできるだけストレスと負担にならないように配慮してくれる医療機関を確保している。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員を確保している。看護職員と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院の目的を早く達成し入院による心身のダメージを最小にするため、入院した時点から早期退院に向けた計画を病院職員や家族と話し合い、そのための支援を行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に看取りの指針についてせつめいしている。入居者の今後希望があれば受け入れていく予定		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	希望があれば受け入れていく。最後まで普通の暮らしができるよう支援していきたい		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居時はできるだけ自宅にいるように居室をレイアウトして頂き、入居に至っている。古く使い慣れた持込の備品等も重視、ダメージ防止に努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者ひとりひとりの尊厳を大切に、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている現実など否定しない、等を職員は徹底している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ひとりひとりができることを、長所、得意なことなどを見つけてその人にあった活躍の場を暮らしに取り入れている。(掃除・除雪・食器洗い)</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>それぞれの気持ち、体調に合わせた支援をしている。きっかけつくりを職員が行い、入居者に決めてもらっている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>入居者一人ひとりが希望、個性、生活層などに応じて髪型・服装の選択やおしゃれができるように支援している。入居者の個々の好みに合わせ美容師、理容師の方と十分に連携をとり支援している。女性は訪問美容、男性は訪問理容の利用している。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>入居者の好みを把握して献立に取り入れている。誕生日や個別のお祝い事は本人の希望をとりいれ本人に喜ばれている。入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や慢性疾患(糖尿病)、日々の体調を把握して、ひとりひとりに適した調理方法にしている。便秘下痢等の健康状態にあわせた調理方法や、おいしい盛りつけの工夫をしている。また調理のお手伝いなどに参画してもらっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつ、飲み物(アルコールは禁)はひとりひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者の背景にあるさまざまな誘因をていねいにチェックし、改善できる点はないか、それまでの排泄習慣を探りながら、一人ひとりにあった排泄支援をしている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者の長年の生活習慣や現在の希望を大切に無理強いするのではなくつろいだ気持ちで入浴できるよう支援している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	睡眠薬に頼っていると、いろいろな弊害が出てくる。昼夜逆転にならぬよう日中の活動などに気を配り安定した眠りが導けるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	楽しみや張り合いのある暮らしのために、また潜在化している記憶や体力の最大限を活かして「自分らしく生きていく」ために、一人ひとりにあった楽しみや役割の場面づくりの支援を行っている。(テレビ番組、除雪、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話等)		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	認知症のためにお金の管理や日常の出納が難しくなっているが、支援があれば扱える分だけ自分のお金を手元に持ち、使わずとも自分で持っているということで安心する人、ちょっとした買物を楽しめる人も決して少なくない。本人のそれまでのお金の使い方、持ち方、本人と家族の希望、金銭管理や使うために有する力を把握し、日常にお金に触れ、使えるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買物に行くことは、町や商店との触れ合い、本人の記憶に残るさまざまな品物や場所との出会い、季節を体感できる場面などを体験してもらうことにつながるので、必要物品や好みの買い物に出る機会を日常的につくっている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	レクリエーションなど季節ごとに外出する機会を作っている。(散歩・町内のお祭り・美術館等・神社参り・買物・さくらんぼ狩り・りんご狩り・近所の公園)		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	手紙や電話が困難になっている場合は、入居者一人ひとりの手紙や電話の習慣、希望持てる力を確認しプライバシーを守りながら各自に応じた手紙や電話の利用ができるように支援している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族が訪問の際は歓迎し、面会時間などの定めはなくいつでも出入りは自由である。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	すべての職員が、身体拘束のないケアを実践している		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	外出の察知をしたら、一緒について行くなどし自由な暮らしを支え、一緒について行けないときは、気を紛らわせるような対応をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中職員がリビングにいるようにし、居室、リビングを見守る。夜間は入居者の音が聞こえるように、入居者の廊下を見守っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品については入居者の手の届くところには置かないように鍵をかけて保管、管理する。職員の見守りのなが行っている。収集する人もいるので所在確認と個数、量などは職員がチェックしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急事態が発生した場合組織的な対応や管理がスムーズになされるための緊急時対応マニュアルがあり、全職員が徹底するよう日々確認している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急事態が発生した場合組織的な対応や管理がスムーズになされるための緊急時対応マニュアルがあり、全職員が徹底するよう日々確認している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災訓練、避難訓練を実施している。地域に協力を得られるように運営推進会議や近所との関係づくりをしている		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	発生時の対処方法、生活方法などアセスメントを含め家族と相談しながら行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	本人のふだんの様子をよく知り、常に変化や異常の発見に努めている。変化に対応した継続的な対応を確実に進めていくために経過記録に残している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者個々が使用している薬剤の治療目的、薬の用法や用量を把握し医師の指示通り本人が服薬できるよう薬箱・薬ファイルを作り、朝・昼・夜の服薬を全職員が支援している。服薬が心身の安定につながっているか、副作用がないか申し送り確認し副作用がある場合は医師と家族に連絡している。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	一日の暮らしの中で、飲料水を増やす、繊維質の多い食品や乳製品を献立やおやつに取り入れる、定時の排便誘導、運動や家事などで身体を動かす等便秘解消のため取り組んでいる。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎日のモーニングケア、ナイトケアと一緒に歯ブラシを持ち入居者の力を引き出し、自分で習慣付けられるよう支援している		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一日の摂取カロリーや水分摂取量を記録に残しカロリーの過不足、栄養の偏りがないように把握している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策研修会に出席し朝のミーティングで報告を繰り返し、注意事項を貼付し全職員に徹底している。マスク・うがい・手洗いの徹底。全職員・入居者はインフルエンザを受けている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>夜間及び必要時の除菌や食洗器を活用している。冷蔵庫の中は保存期間のチェック管理をおこなっている。安全に努めている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>自宅に代わる住み家として安堵感を持って生活してもらえよう、サルビアとマリーゴールドが秋ごろまで美しく咲き、また季節ごとに、玄関前には七夕飾り・クリスマスツリーのイルミネーションを飾り、入居者、地域の方々に喜ばれている。毎年、夏は玄関前の駐車場で、子供盆踊り、ピアガーデン、屋台など入居者、地域の方々と夏祭りを楽しみ交流をはかった。玄関の堀の前がバス停となっており、ベンチを置きバス利用者や、入居者がベンチに腰かけ気軽に交流できるよう配慮している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)に鉢物をたくさん飾りほっとできる場としている。また四季、催事にあわせて室内の飾り付けをしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食堂のリビング、テレビの前、廊下の突き当たり、玄関の横、夏は庭やデッキで椅子に腰掛け、自由に過ごせるスペースがある。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>7.5畳の広さがあり、使い慣れた家具、仏壇等馴染みの物が持ち込まれている。また写真などを壁に飾り、安心して過ごせる場所となっている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>毎日10時と3時に部屋の換気をして、できるだけ自然環境に近い換気、空調管理の日々の点検をする。暖房の調節はこまめに行い体調の安定を考えた消臭、除菌液を噴霧している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① 大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	① ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
 運営理念「健康への配慮を行い心と体の元気を取り戻していただく」「思いやりや命の尊さ、人としての尊厳を重んじる」「こころの通いあうなかよし家族」の実践。  
 毎朝のミーティングで入居者さんの状況報告・振り返り、および予定・決定事項の連絡。  
 ペットと一緒に入居できる。  
 地域の一員として、地域の行事には可能な限り入居者さんと参加し、地域に根付いた活動の実践。